

情報モラルちょっと授業

～10分程度で指導する情報モラル～

対象学年	中学校 1年生
------	---------

領域	教科指導 (数学)
----	-------------

指導項目	[文字の計算] 指数の計算の発展問題にて
------	----------------------

<u>情報モラル指導モデルカリキュラム</u>			
分野	安全への知恵		
コード	d4-2	指導事項	トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る
指導のねらい	受け取ったチェーンメールを容易に自分の友人に対して送信してしまう生徒が多いため、チェーンメールの危険性や影響について意識をもたせる。		

科目・活動との関連	指数の計算を通して、チェーンメールの広がりや危険性について認識させ、チェーンメールが周囲に与える影響と対処法について考えさせる指導を行う。
利用教材(サイト等)	総務省「チェーンメール」等の取り扱いについて (注意) (http://www.soumu.go.jp/menu_kyotsuu/important/kinkyu01_000096.html) 自作プリント

学習の過程 (25分)	指導法	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none">チェーンメールの概要について知る。チェーンメールの広がり方を計算して求める。	<ul style="list-style-type: none">総務省HPの「チェーンメール」について、どのような種類があり、その影響について説明する。発信元が数名に送信し、受信者がさらに送信者となることで、短期間に膨大な人数がチェーンメールを受け取り、また送信することになることを、指数の計算を通して実感させる。	<ul style="list-style-type: none">指数の計算では、電卓を使用させて、時間の効率を図る。

子どもの反応	同じ数を何度もかけていくと、とても大きな数字となり、驚いた表情を見せた。5をかけることを11回繰り返すと、日本の総人口と同等の数字となり、瞬く間に全国民がメールを受信してしまうことを理解できた様子だった。
実践の評価	生徒が興味をもつことと、数学とを関連づけた学習だったため、生徒も非常に理解しやすいものとなった。電卓を使用したことで計算もスムーズに行うことができ、チェーンメールの危険性や影響という学習の確信となる部分にも十分にふれることができた。